

海外・帰国 あれこれコーナー

このコーナーでは、いろいろな立場の人たちの声を聞きながら、特に海外に住んでいる保護者の方々に役立てていただける情報や、参考になる考え方を提供していきます。

取り上げてほしいテーマ、ご意見、ご感想などをお知らせください。皆様の声を聞きながら、このコーナーをできるだけ実際に役に立つものにしていきたいと思っています。連絡は、Eメールで、sasa@keimei.ac.jp までお願いいたします。



佐々 信行
さっさ のぶゆき

啓明学園初等学校 校長

ハンブルク補習校、帰国子女受け入れ担当（横浜市）、日本語イマージョン・プログラム教諭（バージニア州）、ワシントン補習授業校を経て、現職。

啓明学園 初等学校・中学校・高等学校
東京都昭島市拝島町 5-11-15
代表： 042-541-1003
国際教育センター： 042-546-5881
www.keimei.ac.jp



外国からのお客様（啓明学園）

英語をどうする

◆「小学校英語」をめぐって

日本の公立小学校で英語を教科とするべきかどうかという議論が盛んになっています。このテーマで、パネルディスカッションがあり、パネラーとして参加しました。

ほかの二人のパネラーは、東京インターナショナルスクールの創立者坪谷郁子さんと、東京コミュニティスクール校長の市川力さんです。坪谷さんは、英語を通して生きることの意味を教える国際教育活動を20年以上続け、600校をこえる学校で採用されている小学校の英語活動用のプログラムを書いた人、市川さんは、アメリカで13年間日本人の子どもたちを教え、英語教育についての本も著している人です。私は、アメリカの学校で外国語として日本語を教えていた経験があり、私の学校ですでに英語を教科として教えています。パネラーの顔ぶれを見て、多くの参加者は、討論が「英語を教科として実施することを積極的に勧めよう」という方向に進むだろうと予想しておられたようです。主催者は、賛成と反対の対立する意見が主張されて、活発な応酬が行われることを期待していたかもしれません。

しかし、実際は、パネラー三人の意見はあまりちがっていませんでした。三人とも、生活で英語を使う必要がなく、十分にトレーニングされた先生があまりいない状況で、週に1回か2回の授業を一律に始めることには疑問を感じていました。教科としての英語を積極的に推進しようとしている人たちは、英語教育の現場をあまりよく知らないのではないかという心配も共通でした。実際に子どもたちを教える経験を積んだ人は同じような考えになってしまうようだと思います。

毎年、夏には、全国の私立小学校の先生たちが集まって研究会を開きます。私立学校の中には、すでに英語などの外国語を教科として実施している学校がたくさんあります。そこでも、小学校の外国語教育をどう評価するかが話題になりました。どこの学校でも、小さいうちに外国語にふれさせ、外国の文化に関心を持たせることの意味は認めています。が、実際的なコミュニケーションの力をつけるということに関しては、100%の自信を持ってないというのが本音のようで